

黒河(くろこ)の会便り 第 18 号

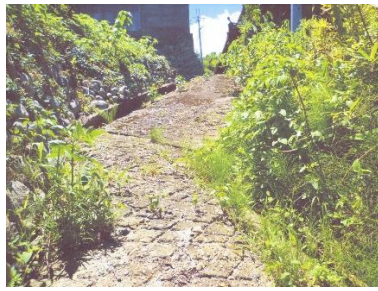
◆ 賢堂の坂道

黒河道の起点とされている賢堂の定福寺を出発すると、すぐに急峻な坂道にさしかかる。地元で**ドバイ坂**と呼んでいる此の坂は、土を這うような急な坂道からこの様に呼ばれるようになったのかも知れない。この坂道からはじまり、五軒畑、鉢伏せ、明神ヶ田和から、蕨谷、市平 …。高野山への最短距離の道である。

紀ノ川中流、河岸段丘の特徴的な地形であるこのあたりは当然ながら坂道が多い。定福寺へと向かう坂道の一つに、**淵ノ坂**（現在は南海電鉄の踏切閉鎖により廃道となる）がある。遠い昔、暴れ川の紀ノ川は向副村の上島付近で二つに分かれ、現在の南海高野線の路線と並行するように流れ、清水村の野手付近で合流していた。これを**淵ノ川**と呼んでいる。賢堂付近では淵になっていたため、この名が付いたと思われる。



改修された淵の川

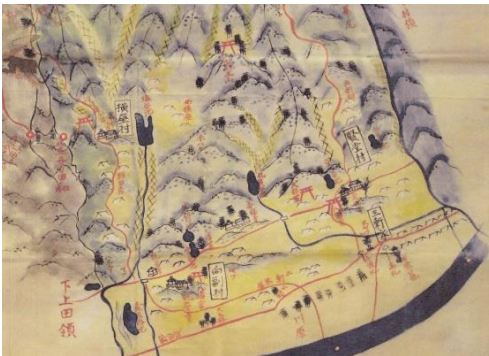


廃道となった淵の坂



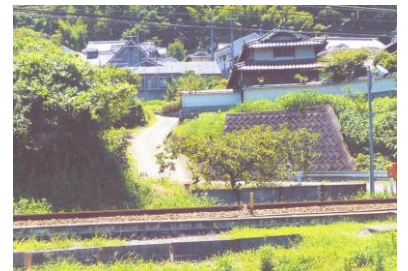
高野線によって閉じられた淵の坂

古地図に依れば、三軒家（三軒茶屋）、石灯笼、高札、舟渡札という表記が見られ、淵ノ川を渡った付近は大ヤブと書かれている。（他にもヤブの表示が有るが大ヤブはここだけ）



大藪坂という名前の由来もこのあたりから来たのかも知れない。賢堂の小字に浦垣内（通称 ウラデ）と呼んでいる地区ある。ここは**大藪坂**の在る場所で、此処に淵ノ川を上ってきた船着き場があったと思われる。ここで荷揚げされた物資は黒河道を登り、高野山にも運ばれていたのであろう。**淵ノ川**名残の沼田や湿田は今は造成区画整理され、淵ノ坂も廃道となりつつある。やがては人々の記憶や語り伝えからも消えてしまう事だろう。地名の由来を想像しながら、歴史とともに、この地に生きた先人の姿を心の中に刻んでおきたいものである。

大藪坂 →



◆ 戦国武将と高野山

高野七口再生保存会は既に世界遺産に登録されている道以外に、高野から放射状に延びる手付かず参詣道を再生させ、末永く地域の財産として保存活用していく事を目的に発足した会です。中でも黒河道の再生を優先して取り組み、今回の文科大臣への答申を出すまで漕ぎ着けました。

再生保存会では、月に一度「高野七口学」を開き、各界の講師による講演会を実施しています。

今後の予定 8月 1日（土） 14：30～16：00 講師 岩倉 哲夫氏
 9月 13日（日） 14：30～16：00 講師 木下 浩良氏
 場所▶ いずれも 波大阪府立大学アイサイトなんば
 詳細▶ 別紙 パンフレット 参照